

環境部会セッション

テーマ

地域型住宅・省エネガイドラインについて考える

運営 環境部会

いよいよ、国交省から省エネ基準のガイドラインが2016年春に発表されました。次は各地域から、単位士会が主体的に気候風土適応住宅の認定のガイドラインをもとに考え、行政と連携して地域独自に策定した気候風土適応住宅の認定指針をつくり上げることが求められています。京都市、高知県、熊本県、岩手県、志木市などは4月からその動きを始めています。これらの先行事例の報告と、今後の地方士会での展開について考える機会とします。

内容は、昨年作成したよくわかる環境建築テキストの紹介と各地方士会への普及啓発、伝統木造住宅と省エネ基準に関する公開フォーラムの報告と国交省との協議の報告の後、地域型住宅・省エネガイドラインモデル地区の活動について報告と課題を提出します。



環境フォーラム案内(2016年1月実施)

日時...平成28年10月22日(土) 13:00~14:30(CPD...2単位)

会場...別府国際コンベンションセンター
ピーコンプラザ3階 国際会議室

定員...300名(予定)

情報部会セッション

テーマ

建築士のBIM活用 リノベーションとBIM 活用と成果

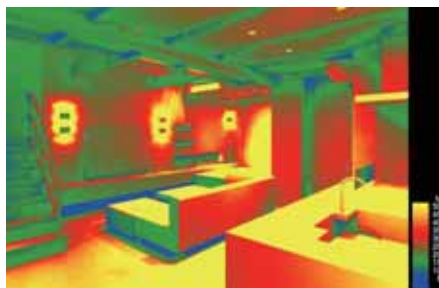
運営 連合会情報・広報委員会 情報部会 / BIM TF

コンピューターで仮想の建物モデルを作りながら設計を進める手法であるBIM(ビルディングインフォメーションモデリング)欧米では7割を超える建築士が活用しているとも言われ、日本でも大手のゼネコンや組織設計事務所を中心に2009年頃から普及が始まりました。

日本建築士会連合会では2013年の全国大会島根大会以降BIMフォーラムを開催し、BIMの効果と課題を討議しました。毎回150名を超える熱心な参加者に支えられ、会員の中でも徐々にBIM活用の動きが広がっています。

一方、建築市場は新築からリノベーション(リフォーム)へ大きく転換し、建築士の業務もインスペクション(住宅検査)など改修にかかわるものが増加しています。

点群(ポイントクラウド)によって現況建物を立体的に測定し現況調査に役立てたり、環境解析によって省エネ改修の効果を事前に把握したりするなど、改修にかかわるBIMを活用した新しい業務プロセスが



3Dスキャナによる点群測定結果とBIMによる照度解析結果

広く普及し始めています。

そこで今回は、リノベーションをテーマにBIMがもたらす効果を参加建築士と考える場としたいと考えています。

日時...平成28年10月22日(土) 13:00~14:30(CPD...2単位)

会場...別府国際コンベンションセンター ピーコンプラザ1階 中会議室

定員...200名(予定)